

河川事業

再評価原案準備書

- 1 石狩川総合水系環境整備事業
- 2 沙流川総合水系環境整備事業

令和4年度
北海道開発局

事業名 (箇所名)	石狩川総合水系環境整備事業	担当課 担当課長名	水管理・国土保全局河川環境課 豊口 佳之	事業 主体	北海道開発局
実施箇所	北海道札幌市、旭川市、砂川市、恵庭市、南幌町、美瑛町等			評価 年度	令和4年度
該当基準	再評価実施後一定期間(5年間)が経過している事業				
主な事業の諸元	<p>【江別市かわまちづくり】 高水敷整正、側帯、管理用通路、階段護岸等</p> <p>【砂川地区かわまちづくり】 親水護岸、高水敷整正、管理用通路、水路工等</p> <p>【恵庭かわまちづくり】 親水護岸、管理用通路等</p> <p>【幌向地区自然再生】 湿地整備等</p> <p>【美瑛川地区かわまちづくり】 高水敷整正、管理用通路等</p> <p>【当別地区自然再生】完了箇所 フンド、湿地整備等</p> <p>【旭川市街地区かわまちづくり】完了箇所 階段工、管理用道路、高水敷整正等</p> <p>【茨戸川水環境整備】完了箇所 導水施設、浚渫等</p> <p>【豊平川水辺整備】完了箇所 護岸、高水敷整正、管理用通路等</p> <p>【漁川水辺整備】完了箇所 高水敷整正、管理用通路、坂路、管理用階段等</p> <p>【雨竜川水辺の楽校】完了箇所 高水敷整正、管理用通路、坂路等</p> <p>【漁川ダム貯水池水質保全】完了箇所 河岸保護工、堆砂掘削、湖水循環装置等</p>				
事業期間	事業採択	昭和42年度	完了	令和14年度	
総事業費(億円)	約295	残事業費(億円)		約6	
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <p>【江別市かわまちづくり】 ・石狩川と千歳川が合流する事業箇所周辺地域には、明治時代に始まった北海道の開拓において主要な交通手段だった鉄道と舟運の結節点である江別港がかつてあり、外輪船(旧岡田倉庫)などの歴史的建造物が残っている地区である。 ・しかし、江別市街地築堤整備に伴い移設が必要となり、江別市では外輪船(旧岡田倉庫)の令和5年度中の移設を予定している。 ・今回の堤防整備に併せて、外輪船(旧岡田倉庫)の歴史的景観を活かしつつ水辺とまちを一体的に整備し、交流人口の増加、歴史的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出が必要となっている。</p> <p>【砂川地区かわまちづくり】 ・平成27年8月、道央自動車道砂川SAにスマートインターチェンジが開通したが、砂川市内へ観光客を呼び込む観光資源をどう作っていくかが課題となっていた。 ・一方、石狩川の洪水調節のために平成7年に完成した砂川遊水地については、平常時は水上アクティビティや釣り、散歩等を楽しむオアシスパークとして利用されているが、美しい景観、広大な水辺空間等ということにしかない魅力を有していた。 ・そこで、地元関係者・砂川市・河川管理者からなる「オアシスパークからゆめまちづくり協議会設立準備会」が平成28年1月に発足し、砂川オアシスパークが観光情報の拠点、休憩ポイント等となり、砂川市内へ回遊する人が増えることによって地域振興が図られるため、利活用プランについて協議・検討が進められてきた。 ・平成30年1月、より具体的な事業計画の策定と実践のために協議会が設立され、市民及び関係者の期待も高まっている。</p> <p>【恵庭かわまちづくり】 ・恵庭市では、「恵庭市総合戦略」に基づき、職・住・観光機能の拡充のため、「ガーデンプロジェクト」を推進しており、事業箇所に近接する道と川の駅周辺を「花のビレッジ」と位置付け、花の拠点(公園)の整備及び新住宅団地建設を進めている。</p> <p>・事業箇所である漁川の河川空間は、隣接する市街地で展開される花の拠点及び新住宅団地と一体となった新たな「恵庭市の交流観光の拠点」として、市民及び観光客が、気軽に自然と触れ合い、多様なレクリエーションを楽しみ過ごすことができる魅力あるレクリエーションエリアとしての役割を担うことが期待されており、河川空間へのアクセス向上、親水機能の向上等が課題となっている。</p> <p>【幌向地区自然再生】 ・夕張川下流部の高水敷には、ポグ(ミズゴケを主体とする湿原)が多くを占めた幌向原野の名残である高位泥炭が広く分布している。 ・夕張川の高水敷では、地表面付近の水分の染み出しにより泥炭層の表面から乾燥し、分解が進行している。その結果、本来は、泥炭地では見られないオオアワダテソウ(外来種)等の乾いた所を好む植物が高位泥炭地に侵入し、ホロムイコウガイ等の地域固有の希少な湿生植物の生育環境が消失してきている状況にあり、このまま放置すると、貴重なポグが失われるおそれがある。</p> <p>【美瑛川地区かわまちづくり】 ・美瑛町は、近年、青い池が観光名所となったほか、周辺に道の駅びえい「白金ビルケ」がオープンしたこともあり、多くの観光客が来訪して観光入込客数が増加しているが、宿泊客数は減少しており、通過型の観光になっていることが課題となっている。 ・サイクリングイベント「センチュリーライド」の実施などにより、自転車利用者が増加しているが、丘陵地帯と白金温泉を結ぶ道道は観光シーズンの交通量が多く、安全性が確保できない状況にある。 ・多くの観光資源は、美瑛川の上流(山岳・温泉エリア)と下流(丘陵・市街エリア)に分かれているため、つながりとしての川の役割が期待されている。</p> <p>【当別地区自然再生】 ・石狩川では、周辺における土地利用の急速な進行、湿地環境の減少など自然環境の変化が進んでいる。 ・このため、石狩川下流域のかつての河川環境の再生を図ることを目的に、平成19年3月に「石狩川下流自然再生計画書」を策定した。 ・当別地区は、水系の中でも生物の移動経路の交差する重要な箇所であることから、拠点地区に位置付けられている。</p>				

【旭川市街地区かわまちづくり】

・堤防は、急傾斜で階段、取付道路等が不足しており、堤防天端と高水敷及び公園との間を行き来するための動線が確保されていない。
・石狩川の堤防及び高水敷は、イベントスペース並びに歩行者及び自転車の動線として利用されているが、堤防と高水敷を結ぶ動線が不足している。また、既存の階段も老朽化している上に急なため、ユニバーサルデザインの観点からも問題がある。

【茨戸川水環境整備】

・茨戸川は、石狩川本川から切り離された延長約20kmの旧川で、札幌市及び石狩市の都市排水が流入しているため、アオコが発生するなど水質が悪化している。
・国、北海道、市町等により、昭和53年2月に「茨戸川環境保全総合計画」を策定し、浄化対策を開始した。浚渫、下水道整備の進捗などにより、水質は改善傾向にあるが、環境基準を達成していない。

【豊平川水辺整備】

・札幌市では、急激な都市化の進展を背景に都市部を中心とした緑地空間の減少が進んだことを受け、昭和42年に藻岩橋から雁来大橋までの約330ha(水面含む)を豊平川緑地として都市計画決定した。
・このため、市民の要望及び札幌市の計画を踏まえ、昭和46年から河川空間の利用の基盤整備として親水性を考慮した護岸の整備、高水敷利用の促進のための高水敷整正などの環境整備事業を実施してきた。

【漁川水辺整備】

・平成17年4月に策定された「石狩川水系千歳川河川整備計画」では、漁川等の河川空間を地域の人々が憩いの場や自然体験学習の場等として活用できるよう、地域のまちづくりと連携を図りつつ、できるだけ自然を活かして水辺を整備し、人と川とのふれあいの場の提供に努めるとともに、高齢者、障害者等も安心して利用できる河川空間の形成に努めることとされている。
・このため、周辺地域が一体となって河川の利用推進を図り、国と恵庭市が連携して、水辺へのアクセス改善と体験学習・環境教育のための河川空間の形成を目的とした環境基盤整備を実施してきた。

【雨竜川水辺の楽校】

・平成19年5月に策定した「石狩川水系雨竜川河川整備計画」では、雨竜川等の河川空間を地域の人々が憩いやレクリエーション、自然体験学習の場などとして活用できるよう、関係機関と連携して、できるだけ自然を活かした水辺の整備を図り、人と川とのふれあいの場の提供に努めるとともに水辺の楽校の一層の活用を図ることとしている。
・当該環境整備事業では、国と沼田町が連携し、体験学習・環境教育(水辺の楽校)の場として水辺の保全と活用を図るとともに、管理用通路の整備等を併せて実施した。

【漁川ダム貯水池水質保全】

・漁川ダムでは、昭和56年頃から水道利用者からカビ臭に対する苦情が寄せられた。特に、平成5年からは夏季を中心に顕著なカビ臭が発生し、住民から苦情が殺到するとともに、平成10年には石狩東部広域水道企業団、平成12年には恵庭市からカビ臭対策に関する『要望書』が提出された。

・また、一方で、植物プランクトンのパンドリナ(Pandorina morum)の異常発生によるダム湖の景観障害(変色水)が生じるとともに、水道基準を上回る高濃度のマンガンが検出され、自治体及び利用者から早急な対策が求められた。

・これらの発生原因を調査した結果、カビ臭の原因は放線菌の死滅によるジェオスミンの放出、パンドリナの異常発生原因は貯水池の水温上昇、また、マンガン濃度の上昇原因は貯水位低下に伴う堆積土の洗出しであることを解明した。

・漁川ダム貯水池水質保全事業は、カビ臭の発生抑制、パンドリナの異常発生の抑制及びマンガン濃度の抑制を目的として事業を実施した。

<達成すべき目標>

【江別市かわまちづくり】

・本事業は、江別市、協議会及び国が連携し、条丁目地区・大川通地区を地域観光・まちづくりの拠点に位置づけ、外輪船(旧岡田倉庫群)の歴史的景観を活かしつつ水辺とまちを一体的に整備することで、地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信するとともに、市民に日常的に水辺を利用してもらい、水辺とまちをつなぐ人の流れや民間活力を取り入れ、河川空間の賑わいを創出することを目指すものである。

【砂川地区かわまちづくり】

・本事業は、自治体、協議会及び国が連携し、「砂川遊水地」を、より利便性及び安全性の高い親水レクリエーション空間として整備するものである。

・国道12号沿線の砂川市街地中心部の商業施設等から至近の距離にある「砂川遊水地」について、「すながわスイートロード」など地域活性化の取組と連携した利活用を推進し、交流人口の増加、地域活性化等を目指している。

【恵庭かわまちづくり】

・本事業は、恵庭市と国が連携し、漁川へのアクセス向上のための管理用通路及び親水施設の整備を行うものである。隣接する花の拠点(公園緑地)整備及び民間による新住宅団地の計画と連携して、より魅力的な水辺空間を創造し、交流人口の増加、居住環境の向上等を目指している。

【幌向地区自然再生】

・石狩川の湿原の特徴であるボグを中心とした湿原を再生する。

【美瑛川地区かわまちづくり】

・道道の近くを流れる美瑛川の河川空間をサイクリングコースとして活用し、上下流に分かれている観光地を結ぶことで、市街部周辺の観光地から白金温泉地区への観光客の誘導を行い、周遊性の向上による地域活性化及びインバウンドを含めた観光の促進を図る。

【当別地区自然再生】

・当別地区では、生物の生息環境の再生を目的として、「河岸環境の再生」「湿地・草地環境の再生」「樹林環境の再生」を図ることを目指す。

【旭川市街地区かわまちづくり】

・常磐公園周辺地区に多くの市民が集まるよう再整備を行い、地区の魅力を高め、人の流れを作り出し、中心市街地の活性化につなげていくために、石狩川など河川空間を利用して文化芸術的資源のネットワーク化を図るとともに、民間事業者と連携して河川空間利用時の利便性向上を図り、河川空間を活用した観光都市の機能を高めることを目的とする。

【茨戸川水環境整備】

・茨戸川では、BOD3mg/lを達成し、生物の生息環境の向上、積極的な親水利用及び美しい水面景観の保全を図ることができる水環境の形成を目標とする。

【豊平川水辺整備】

・当該事業実施区間では、野球場、テニスコート、パークゴルフ場等のスポーツ施設や、公園、遊具広場等を整備し、スポーツや散策等のレクリエーションの場として、地域住民のみならず近隣都市からの広域的な施設利用の向上を図ることを目標とする。

【漁川水辺整備】

・当該事業箇所では、主に小中学生を対象とした水辺体験等が実施されることを目標とする。

【雨竜川水辺の楽校】

・当該事業箇所では、主に小中学生を対象とした水辺体験等が実施されることを目標とする。

【漁川ダム貯水池水質保全】

・当該事業箇所では、貯水池下層のDO濃度を水質改善の目標値である6.0mg/lに、また、貯水池下層のジェオスミン濃度を水道法に基づく水質基準値である10ng/lにすることを目標とする。

目的・必要性

目的・必要性	<政策体系上の位置付け> ・政策目標：良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現 ・施策目標：良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環の推進											
便益の主な根拠	<自然再生> 【幌向地区自然再生】 CVMにて算出(平成30年度算出) 支払い意思額：479円/世帯/月(住民)、受益世帯数：151,521世帯(住民基本台帳 平成30年1月) 【当別地区自然再生】 CVMにて算出(平成29年度算出) 支払い意思額：363円/世帯/月、受益世帯数：1,130,171世帯(住民基本台帳 平成29年1月) <水辺整備> 【江別市かわまちづくり】CVMにて算出 支払い意思額：429円/世帯/月(住民)、受益世帯数：62,161世帯(住民基本台帳 令和3年1月) 支払い意思額：825円/人/日(観光客：日帰り)、受益者数：527,965人日/年(観光客：日帰り、平成28年度～令和2年度平均) 【砂川地区かわまちづくり】 CVMにて算出(平成30年度算出) 支払い意思額：484円/世帯/月(住民)、受益世帯数：60,005世帯(住民基本台帳 平成30年1月) 支払い意思額：514円/人/日(観光客：日帰り)、受益者数：390,929人日/年(観光客：日帰り、平成24年度～平成28年度平均) 【恵庭かわまちづくり】 CVMにて算出(平成30年度算出) 支払い意思額：441円/世帯/月(住民)、受益世帯数：81,431世帯(住民基本台帳 平成30年1月) 支払い意思額：402円/人/日(観光客：日帰り)、受益者数：510,429人日/年(観光客：日帰り、平成24年度～平成28年度平均) 【美瑛川地区かわまちづくり】 CVMにて算出(平成30年度算出) 支払い意思額：347円/世帯/月(住民)、受益世帯数：217,035世帯(住民基本台帳 平成30年1月) 支払い意思額：385円/人/日(観光客：日帰り)、受益者数：656,842人日/年(観光客：日帰り、平成24年度～平成28年度平均) 【旭川市街地区かわまちづくり】 CVMにて算出(平成29年度算出) 支払い意思額：416円/世帯/月、受益世帯数：193,643世帯(住民基本台帳 平成29年1月) 【豊平川水辺整備】 TCMにて算出(平成22年度算出) 旅行費用：1,080円/人(無料施設) 利用者数：890,800人/年(無料施設) 旅行費用：2,319円/人(有料施設) 利用者数：157,951人/年(有料施設) 【漁川水辺整備】 TCMにて算出(平成22年度算出) 旅行費用：794円/人(漁川水辺プラザ地区) 利用者数：15,345人/年(漁川水辺プラザ地区) 旅行費用：626円/人(漁川地区) 利用者数：21,720人/年(漁川地区) 【雨竜川水辺の楽校】 CVMにて算出(平成22年度算出) 支払い意思額：439円/世帯/月 受益世帯数：1,634世帯 <水環境整備> 【茨戸川水環境整備】 CVMにて算出(平成29年度算出) 支払い意思額：413円/世帯/月、受益世帯数：1,128,765世帯(住民基本台帳 平成29年1月) 【漁川ダム貯水池水質保全】 CVMにて算出(平成22年度算出) 支払い意思額：697円/世帯/月、受益世帯数：78,068世帯(住民基本台帳 平成22年3月)											
事業全体の投資効率性	基準年度	令和4年度	B:総便益(億円)	5,658	C:総費用(億円)	1,788	B/C	3.2	B-C	3,872	EIRR (%)	9.4
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	177	C:総費用(億円)	9	B/C	18.8						
感度分析	事業全体のB/C		残事業のB/C									
残事業費(+10%~-10%)			3.2	~ 3.2	17.2	~ 20.7						
残工期(+10%~-10%)			3.2	~ 3.2	18.2	~ 19.2						
便益(-10%~+10%)			2.8	~ 3.5	16.9	~ 20.6						
事業の効果等	【江別市かわまちづくり】 ・この取組により、歴史的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出、水辺を活用したイベントによる市内外からの広域的な観光誘客、交流人口の増加を図る。 ・外輪船(旧岡田倉庫)は、江別市の芸術・文化の発信を目的としたイベントスペースとして活用されており、最近では海外アーティストの展示会やプロジェクションマッピング等が行われている。 ・また周辺では、近年、住民の転入や保育施設の開設等も見られはじめており、日常的な散策や水辺利用、冬場のファットバイク・クロスカントリースキーコースの設定など、周辺施設と一体となった水辺空間を創出しつつ、同時に、江別市の観光誘客を推進することで地域の魅力向上と活性化に寄与することが期待される。 【砂川地区かわまちづくり】 ・地域の住民及び砂川市を訪れる観光客が、水上及び水辺での様々なレクリエーション活動を、より安全、快適に行えるようになる。 ・また、「すながわスイートロード」など地域活性化の取組と連携することで、まちなかと水辺との人の流れを作り出し、地域の観光振興や地域活性化が期待される。 ・砂川遊水地の利用者数は順調に増加し、平成30年度は約2.4万人の利用があった。 【恵庭かわまちづくり】 ・新たな親水エリアの創出や、これまでできなかった水際の水生生物観察などが可能になるとともに、隣接市街地と一体的な魅力的な水辺空間が形成される。 ・近年、新型コロナウイルス拡大の影響により観光市場全体が落ち込んでいるなかで、令和2年3月にリニューアルオープンした「道と川の駅 花ロードえにわ」の利用者数が100万人以上を維持しており、併設された直売所の売上げが大きく増加しているなど、集客力の高い施設となっている。これらの観光施設や、周辺で多数展開されているイベントとの連携により、地域の交流人口の増加や観光振興など地域活性化が期待される。 【幌向地区自然再生】 ・当該箇所の整備により、ほろむい七草を始めとした希少な湿生植物の生育地の形成に向け、ミズゴケ属の群落に代表される多様なポグの生育環境の形成、ポグの周辺におけるヨシ属・スゲ属群落に代表される多様なフェンの形成など、整備箇所周辺とポグの間の移行帯の形成が期待される。 ・現在、遮水壁の設置により湿地面積が回復傾向にあり、その効果が発現している。											

事業の効果等	<p>【美瑛川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美瑛町によるまちづくりと連携して、美瑛川の河川空間をサイクリングコースとして活用することにより、地域の活性化、滞在型観光の振興等が期待される。 ・ジョギング・クロスカントリースキー等の新たな地域資源の創出、自転車や歩行者の安全性向上、観光客の増加等による地域振興が期待される。 <p>【当別地区自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該箇所における河岸の整備、植樹の推進及び湿地と水面の復元を通じて、かつてあった多様な環境を取り戻し、様々な動植物が生育する環境の再生が期待される。これまでのモニタリング調査により、目標種28種のうち27種が確認されている。 <p>【旭川市街地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川空間は、身近な水と緑豊かで憩いと潤いのある空間として、近隣住民や高齢者などに親しまれており、広域的なイベントの開催等にも利用されているため、都市環境の向上に寄与する役割に変化はない。また、旭川市と連携したまち空間の整備により、中心市街地の活性化及び観光都市としての魅力向上が期待される。 <p>【茨戸川水環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川事業及び下水道事業を実施した場合、水質の計画目標値(BOD3mg/l)を達成できる見込みであり、浚渫や下水道整備の進捗などにより、水質の改善が図られている。また、水質改善により、生物の生息環境の向上、親水利用の促進、漁業等の産業振興及び水面景観の向上が期待される。 <p>【豊平川水辺整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業実施区間では、野球場、テニスコート、パークゴルフ場等のスポーツ施設や、公園、遊具広場等が整備されるなど、スポーツや散策等のレクリエーションの場として年間約105万人に利用されている。また、地域住民のみならず近隣都市からの広域的な施設利用が見られる。 <p>【漁川水辺整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業箇所では、平成18年から水辺体験学習が開催されており、平成21年は年間7回実施され、主に市内の小中学生が参加している。 <p>【雨竜川水辺の楽校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業箇所では、平成16年から年間1回～2回の割合で「水辺の楽校体験事業」が開催されており、主に町内の小中学生が参加している。 <p>【漁川ダム貯水池水質保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業の実施により、貯水池下層のDO濃度は水質改善の目標値6.0mg/lをおおむね満足している。また、貯水池下層のジェオスミン濃度は約6ng/l低下しており、水道法に基づく水質基準値10ng/lをおおむね満足している。
社会経済情勢等の変化	<p>①関連事業との整合</p> <p>【江別市かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江別市では、「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成27年策定)」に基づき、観光振興による交流人口の増加と経済活性化を目指しており、具体的な施策として、石狩川や歴史的建造物などの地域資源を観光振興への有効活用とすること等を掲げている。 ・令和元年8月に設立された「さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会」では、札幌市及び近隣の11市町村が連携し、観光客を増加させ、圏域全体の観光消費を増大させるために、戦略的な共同プロモーション事業等を実施しており、当該事業箇所を拠点として活用することを検討している。 <p>【砂川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「砂川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標のうち「新しい人の流れをつくる」を実現するために、行政、地域及び関係団体が連携して砂川オアシスパークの更なる利活用を通してまちの活性化を図る。 <p>【恵庭かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恵庭市では、「恵庭市総合戦略」に基づき、「ガーデンデザインプロジェクト」として職・住・観光機能の拡充を推進しており、花のビレッジ(現 はなふる)、駅周辺の賑わいづくり、工業団地の用途拡大を機能的、複合的に推進すること等により、田園と都市の融合を目指している。 ・恵庭かわまちづくりは、「花のビレッジ」構想の施策の一つに位置付けられており、事業箇所に隣接する「花の拠点(公園)」及び「松園地区新住宅団地(スマートタウン)」と連携し、魅力的な河川空間の整備を図り、新しい「恵庭市の交流観光の拠点」の創出を目指している。 <p>【幌向地区自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幌向地区の自然再生は、体験学習、環境教育など自然環境の保全に対する啓発や、幌向地区で再生される景観や様々な植生の観光資源としての活用を促進するなど、地域活性化に資する取組を行い、地域社会に貢献していく。 <p>【美瑛川地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十勝岳・美瑛川地域連携施策検討委員会」及び地元関係者協議の検討結果を踏まえ、美瑛川地区水辺整備として「駐車場の確保」、「案内看板の設置」、「休憩所などの設置」及び「景観への配慮」について計画している。この計画は、「かわまちづくり支援制度」を活用した「美瑛川地区かわまちづくり」として平成26年3月26日に国土交通省の登録を受けている。 <p>【当別地区自然再生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当別地区の自然再生には、数多くの意見・要望が寄せられ、地域の期待が高まっており、地域の合意形成を図りながら、地域連携による取組を積極的に実施することで自然再生を進めている。 <p>【旭川市街地区かわまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭川市では、常磐公園及びその周辺と、公園に隣接する石狩川及び牛朱別川の河川空間を「文化芸術ゾーン」として位置付け、まちづくりと一体となった河川空間の整備を計画している。この計画は「旭川市かわまちづくり」として、平成21年5月に「地域と連携した川づくりに係る事業(「かわまちづくり計画」)として国土交通省の登録を受けている。 <p>【茨戸川水環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市では、「水」と「緑」の豊かなネットワークを形成することを目的として、札幌北部地区において、維持用水の導水による河川のせせらぎ回復などの都市の水環境の復元、河川環境の整備等による豊かな河川環境と緑環境の一体的形成及び安全な都市生活のための河川空間の活用を進め、市民が親しんだり、様々な生物が生息できるような、豊かで清らかな水辺環境、身近で緑のあふれる都市環境の創出及び水環境の改善を行う「水と緑のネットワーク事業」を進めている。 <p>【豊平川水辺整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「札幌市都市計画マスタープラン」において、本整備区間は、「市街地を貫通し、都市にうるおいをもたらすオープンスペースの軸」となることを目指す『オープンスペース・コリドー』として位置付けられている。また、本整備区間は昭和42年度に都市計画決定されている。 <p>【漁川水辺整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「恵庭市都市計画マスタープラン」において、本整備箇所は、「水と緑のネットワークづくりを進め、河畔及びその周辺の観光・レクリエーション施設との連携を図る」空間に位置づけられている。 <p>【雨竜川水辺の楽校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第4次沼田町総合計画 新世紀めまたプラン21」において、本整備箇所は、農村公園やテニスコート、町営プールなどが整備されたスポーツ活動と水辺とのふれあいを楽しめる「快適スポーツ水郷プラン」の実施箇所として位置付けられている。

【漁川ダム貯水池水質保全】

・恵庭市では、「恵庭市漁川流域に係る水道水源の水質の保全に関する条例」が制定されており、恵庭市民の健康で文化的な生活を確保することを目的として、漁川上流の水道水源流域の汚濁源(ゴルフ場、廃棄物処分場等)を規制し、排水を管理している。また、産業廃棄物の不法投棄について、漁川上流域のパトロールを実施し、河川等の汚染防止に努めている。

②河川等の利用状況

【江別市かわまちづくり】

・当該整備箇所では、春には「こいのぼりフェスティバル」、夏には「えべつ花火」や「石狩川リバーセーリング」等、多くのイベントが開催されている。また、過去にNPO主体で開催された「ミズベのロングマーケット」では、千歳川沿いで多くの市民がコンサート・雑貨販売等を楽しんでいる。

・整備箇所隣接する江別河川防災ステーションでは、江別の観光の紹介及び物産の販売を行っており、年間約7.7万人(令和3年度)が来場している。

・他にも、市民や地元のNPO等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいる。

【砂川地区かわまちづくり】

・「砂川遊水地」は、「砂川オアシスパーク」として親しまれ、サイクリングやヨット、水上バイク、釣りなどに利用されるとともに、「石狩川下寛権(くだらんかい)川下り大会」、「ラブ・リバー砂川夏まつり」などのイベントが開催される水辺のレクリエーションエリアとなっている。

【恵庭かわまちづくり】

・事業箇所隣接する「道と川の駅 花ロードえにわ」は、年間約100万人の利用者があり、えにわマルシェなど様々なイベントが実施されている。

・また、「道と川の駅 花ロードえにわ」に隣接して水遊びのできる多目的広場ウォーターガーデンが設置されており、子供や家族連れでにぎわっている。

・事業箇所である漁川の河川空間は、散策、ジョギングやサイクリングなどに利用され、市内外から多くの人を訪れる水辺のレクリエーションエリアとなっている。

【幌向地区自然再生】

・計画地周辺は、地域のNPO法人によるフットパス行事、環境教育・研究の場等として利用されている。

【美瑛川地区かわまちづくり】

・美瑛川沿いの堤防は、各種スポーツイベント、日々の散策等に利用されている。

【当別地区自然再生】

・当別地区では、維持管理、環境教育、モニタリング調査、情報の発信・提供などに地域のNPO、専門家、住民などと連携しながら取り組んでいる。

【旭川市街地区かわまちづくり】

・毎年、「旭川冬まつり」など様々なイベントが実施されており、多くの市民や観光客が参加している。

・当該整備箇所は、ドリームランド、フラワーランド等、地域住民に限らず近隣市町など広域的な地域からの利用者があり、多様なスポーツ・レクリエーション等の活動・交流の場として年間約128万人(H24)に利用されている。

【茨戸川水環境整備】

・茨戸川は、昭和30年代には遊覧船などの利用も見られたが、アオコの発生など水質の悪化とともに親水利用は減少していた。

・その後の底泥浚渫及び下水処理場の稼働により水質が向上したことで、最近ではカヌー、レジャーボート、ウィンドサーフィン、また、自然観察、環境教育、冬期にはワカサギ釣りなど、積極的な親水利用が行われている。

【豊平川水辺整備】

・当該事業箇所は、野球、サッカー、パークゴルフ、テニス、遊具広場等、地域住民に限らず近隣市町など広域的な地域からの利用者があり、多様なスポーツ・レクリエーション等の活動・交流の場として利用されている。

【漁川水辺整備】

・当該事業箇所は、水辺の楽校の他、地域住民の散歩・散策、憩いの場等として、年間で約4万人に利用されている。

【雨竜川水辺の楽校】

・当該事業箇所は、水辺の楽校として利用されている。

【漁川ダム貯水池水質保全】

・当該事業箇所周辺では、「えにわ湖慈しみフェスタ」等のイベントが開催されている他、えにわ湖自由広場など複数の公園が整備されている。

③地域開発の状況

【江別市かわまちづくり】

・江別市の令和4年1月1日現在の人口は、約12万人であり、近年、大きな変化はない。

【砂川地区かわまちづくり】

・砂川市の令和4年1月1日現在の人口は、約1.6万人であり、近年、大きな変化はない。

【恵庭かわまちづくり】

・恵庭市の令和4年1月1日現在の人口は、約7万人であり、近年、大きな変化はない。

【幌向地区自然再生】

・南幌町の令和4年1月1日現在の人口は、約0.7万人であり、近年、大きな変化はない。

【美瑛川地区かわまちづくり】

・美瑛町の近年の人口は約1万人で減少傾向にあり、少子高齢化の影響で高齢化率は上昇傾向にある。

・観光面では、美瑛センチュリーライドなどのスポーツイベントの開催や、青い池の観光地化、道の駅びえい「白金ビルケ」の新規オープンなどにより、観光入込客数は近年増加傾向にある。一方で、丘陵地を訪れた人が白金温泉で滞在するという動線が定着しておらず、町内全体の宿泊客数は減少する通過型の観光になっていることが課題となっている。また、都市公園の面積は、平成22年以降横ばいとなっている。

【当別地区自然再生】

・当該事業の実施期間(平成13～28年度)においては、当別地区の人口はほぼ横ばい傾向にあり大きな変化はない。

【旭川市街地区かわまちづくり】

・当該事業の実施期間(平成13～28年度)においては、旭川市の人口はほぼ横ばい傾向にあり大きな変化はない。

【茨戸川水環境整備】

・当該事業の実施期間(昭和53～25年度)においては、茨戸川の沿川地域の人口は整備開始時の昭和53年に比べると約1.5倍となっているが、近年は大きな変化はない。

【豊平川水辺整備】

・札幌市は北海道西部の石狩管内に位置し、人口180万人を超える政令指定都市であり、北海道の政治・経済の中心都市である。

・当該事業着手時に比べると平成22年の人口は約2倍近く増加しており、事業のニーズは高まっている。また、当該事業の推進に伴い都市公園面積が増加しており、当事業は都市内の緑地空間及び交流空間の拡大に寄与している。

社会経済情勢等
の変化

【漁川水辺整備】

・当該事業の実施期間(平成15～19年度)においては、恵庭市の人口はほぼ横ばい傾向にあり大きな変化はない。

【雨竜川水辺の楽校】

・当該事業の実施期間(平成17～19年度)においては、沼田町の人口は減少傾向にあるが、大きな変化はない。

【漁川ダム貯水池水質保全】

・当該事業の受益4市(恵庭市、江別市、北広島市及び千歳市)の人口と世帯数はほぼ横ばい傾向にあるが、当該事業の性質上、社会経済情勢の変化には影響しないと考えられる。

④地域の協力体制

【江別市かわまちづくり】

・令和2年11月、江別市・学識経験者・地元関係者による「江別市かわまちづくり協議会」が設立され、外輪船周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組の協議が進められている。

・また、令和3年1月からは、江別市と河川管理者、地域住民による「江別市かわまちづくり勉強会」を開催し、より具体的な事業計画の策定と実践に向けた議論・検討等を行っている。

・今後、河川占用許可準則第22条(都市・再生等利用区域の指定)に基づく営利活動を行う民間事業者の参入が見込まれており、事業を遂行・運営する実行組織の発足を目指す。

【砂川地区かわまちづくり】

・砂川遊水地では、従来から市民団体がごみ拾いを行ったり、あじさいの植栽を行うなど、河川愛護活動が続けられている。

・流域自治体等で構成される地元期成会「北海道河川環境整備促進協議会」から、「河川等が連続した身近な公共空間・河川水面を地域固有の河川の特性を生かして利活用する、個性ある“まちづくり”に対する施策」及び「地域の特徴・魅力を高める水辺の整備」の積極的な推進が要望されている。

・平成28年1月に国、砂川市、NPO、地元住民などで構成する「オアシスパークからゆめまちづくり協議会 設立準備会」が設立され、かわまちづくりに関するワークショップで幅広い議論が行われるとともに、平成30年1月には「オアシスパークからゆめまちづくり協議会」が設立され、かわまちづくりを推進する環境が整っている。

・また、平成29年8月及び11月に、先例地の視察やウォーターヒルズスクエアを活用した物販、フリーマーケットなど新たな利活用を目指す社会実験の取組が実施され、これらの社会実験の結果を踏まえ、令和2年11月に都市・地域再生等利用区域の指定が決定した。

【恵庭かわまちづくり】

・恵庭市と関係団体、地域住民などで構成する「恵庭水と緑のまちづくり審議会」との協議を踏まえ、「ガーデンデザインプロジェクト」に沿ったかわまちづくりを計画している。

・また、「恵庭市観光推進協議会」、「恵庭一万本桜植樹市民の会」、「恵庭河川愛護会」などの恵庭市のまちづくりや観光推進の関係機関とも連携し、地域で一体となった体制で事業を進めている。

・漁川では、従来から市民団体がごみ拾いや植樹・植栽活動を行うなど、河川愛護活動が続けられている。

【幌向地区自然再生】

・「北海道河川環境整備促進協議会」及び「空知地方総合開発期成会」から、夕張川の自然再生の取組が要望されている。

・「石狩川下流幌向地区自然再生実施計画書」に基づき、維持管理や環境教育、モニタリング調査、情報の発信・提供などについて、地域のNPO、専門家、住民などと連携しながら取り組んでいく。

【美瑛川地区かわまちづくり】

・「北海道河川環境整備促進協議会」「北海道上川地方総合開発期成会」「石狩川上流治水促進期成会」等の流域自治体を主体とした地方期成会から、美瑛川地区の環境整備事業促進が要望されている。

・地元関係団体、有識者、行政関係者などからなる「十勝岳・美瑛川地域連携施策検討委員会」が平成25年7月に設立され、美瑛川沿いの堤防をサイクリングコースとして利用し、地域経済活性化を目指すための方策や、美瑛川沿いの砂防設備について周知し、火山災害に関する防災意識向上を図る方策が検討され、同年12月に「美瑛川周辺における地域活性化のための整備のあり方に関する提言」がまとめられた。

【当別地区自然再生】

・「石狩川治水促進期成会」などの流域市町村を主体とした地元期成会から、毎年、当別地区自然再生の促進が要望されている。

・「石狩川下流当別地区自然再生実施計画書」の「地域連携役割分担」に基づき、当別地区では、維持管理、環境教育、モニタリング調査、情報の発信・提供などに地域のNPO、専門家、住民などと連携しながら取り組んでいる。

【旭川市街地区かわまちづくり】

・河川愛護月間には、地域と連携して清掃活動等を実施している。

・石狩川上流治水促進期成会(旭川市を含む1市8町)からは、常盤公園周辺の文化・芸術的資源に着目し、当該地区を「文化芸術ゾーン」と位置付け、隣接する石狩川・牛朱別川河川敷などを合わせてその魅力を高め、多くの市民、観光客等が訪れる地区としていく「旭川市かわまちづくり」計画を進めるため、まちづくりと一体となった河川環境整備が要望されている。

・施設利用団体、地元関係団体、学識経験者、専門家、市民などを交えた「文化芸術ゾーン形成検討会議」等を設置し、検討している。

【茨戸川水環境整備】

・「石狩川治水促進期成会」などの流域市町村を主体とした地元期成会から、毎年、茨戸川水環境整備の促進が要望されている。

・「茨戸川清流ルネッサンスⅡ」に基づく流域対策の取組として、茨戸川流域及び流入小河川において植樹、清掃活動、自然観察会の実施などの各種活動及び環境教育が行われており、地域住民の環境意識が高まっている。

【豊平川水辺整備】

・河川愛護月間には地域と連携して清掃活動等を実施している。毎年、夏季に市民団体や自衛隊等と連携して「豊平川リバーフェスティバル」を実施し、多数の住民の参加が見られる。

・取付道路(ユニバーサルデザイン)の整備に当たっては、地域住民を含め車椅子等による体験会を実施し、整備方法について意見交換を行っている。さらに、豊平川へのサケの遡上を目的として、昭和54年から市民等の協力によるサケの稚魚の放流活動を実施している。

【漁川水辺整備】

・漁川水辺プラザは、恵庭市が実施する「道と川の駅整備事業」と一体的に整備されており、地域のまちづくりとの連携を図っている。また、漁川では、地域住民が参加する清掃活動が定期的に行われており、地域との連携を図りながら流域の環境美化に取り組んでいる。

【雨竜川水辺の楽校】

・平成14年に沼田町の沼田大橋下流付近が「水辺の楽校」に登録されたことを受けて、保育園・幼稚園関係者、PTA、各種団体などの代表が集まって「沼田町雨竜川楽しい水辺協議会」が結成された。「協議会」では、水辺を活用した活動について、川の専門家のアドバイスを受けながら、ワーキング部会や道内先進地の視察などを行い、整備について話し合いを行ってきた。

・また、平成16年から、年間1～2回の割合で「水辺の楽校体験事業」を開催している。

社会経済情勢等の変化	<p>【漁川ダム貯水池水質保全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁川ダムでは、水源地域ビジョンが策定されており、重要な交流の場(憩いの場)、環境学習の場として期待されるだけでなく、漁川ダムを水源に持つことの意識、水源地域を保全しなければならないという意識により、水源地域ビジョンに「水質保全の地域連携」が第一に盛り込まれている。 ・水源地域ビジョンに基づき、ダム周辺では、ダム管理支所主催の「漁川ダム見学会」やエゾミソハギの植栽等が実施されており、地域との連携を深めている。
主な事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 【江別市かわまちづくり】 ・令和5年度着手 【砂川地区かわまちづくり】 ・事業進捗率:68%(総事業費4.8億円に対し、約3.3億円が実施済み) 【恵庭かわまちづくり】 ・事業進捗率:76%(総事業費4.8億円に対し、約3.6億円が実施済み) 【幌向地区自然再生】 ・事業進捗率:76%(総事業費約4.0億円に対し、約3.1億円が実施済み) 【美瑛川地区かわまちづくり】 ・令和元年度完了 【当別地区自然再生】 ・平成28年度完了 【旭川市街地区かわまちづくり】 ・平成28年度完了 【茨戸川水環境整備】 ・平成25年度完了 【豊平川水辺整備】 ・平成17年度完了 【漁川水辺整備】 ・平成19年度完了 【雨竜川水辺の楽校】 ・平成19年度完了 【漁川ダム貯水池水質保全】 ・平成17年度完了
主な事業の進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> 【江別市かわまちづくり】 ・令和14年度完了(予定) ・高水敷整正、側帯、管理用通路、階段護岸等 【砂川地区かわまちづくり】 ・令和10年度完了(予定) ・親水護岸、高水敷整正、管理用通路、水路工事 【恵庭かわまちづくり】 ・令和10年度完了(予定) ・親水護岸、管理用通路等 【幌向地区自然再生】 令和6年度完了(予定) ・湿地整備等
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p><コスト縮減></p> <ul style="list-style-type: none"> 【江別市かわまちづくり】 ・側帯整備に他事業で発生した掘削土を活用し、約4百万のコスト縮減を図ります。 【砂川地区かわまちづくり】 管理用道路整備及び高水敷整正に他事業で発生した掘削土やボックスカルバートを活用し約14百万のコスト縮減を図りました。 【恵庭かわまちづくり】 ・管理用道路整備において隣接する隣接する恵庭市による公園整備により発生した土砂を活用し約32百万円のコスト縮減を図ります。 【幌向地区自然再生】 ・植生移植においてNPOや地域住民等と役割分担を行うことで約18百万円のコスト縮減を図りました。また、管理用道路整備においてコスト縮減を図ります。 【美瑛川地区かわまちづくり】 ・管理用通路の盛土に他事業の河道掘削により発生した土砂を流用し、約5百万円の縮減を行いました。 <p><代替案立案の可能性></p> <ul style="list-style-type: none"> 【江別市かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。 【砂川地区かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。 【恵庭かわまちづくり】 ・かわまちづくりの実施計画は、地元関係者、行政関係者などにより、議論を重ねており、現計画が最適である。 【幌向地区自然再生】 ・整備内容については、計画立案段階から地域活動団体、有識者、国及び関係機関からなる「石狩川下流幌向地区ワークショップ」において議論を重ねており、現計画が最適である。 【美瑛川地区かわまちづくり】 ・整備内容については、地元関係団体、有識者、行政関係者などからなる「十勝岳・美瑛川地域連携施策検討委員会」において議論を重ね、地元説明会を通じて広く意見を求めた上で定めており、現計画が最適である。
対応方針	継続
対応方針理由	・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案とする。
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p><都道府県の意見・反映内容></p> <p>江別市と連携して千歳川の水辺整備を行い、賑わいを創出する地域活性化の取組みなどは、北海道の川づくりビジョンの趣旨に沿っていることから、当該事業の継続について異議はありません。</p> <p>なお、事業の実施にあたっては、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。</p>

事業名 (箇所名)	沙流川総合水系環境整備事業		担当課 担当課長名	水管理・国土保全局河川環境課 豊口 佳之	事業 主体	北海道開発局				
実施箇所	北海道日高町・平取町				評価 年度	令和4年度				
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業									
主な事業の諸元	(国)斜面造成、高水敷整正、管理用道路、河岸整備、側帯盛土、緩傾斜整備、水辺整備、管理用道路、モニタリング (町)水辺空間整備、休憩施設整備、看板整備、植樹、モニタリング									
事業期間	事業採択	平成14年度	完了	令和14年度						
総事業費(億円)	約11		残事業費(億円)	約5						
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> 平取町は、古くより町域の沙流川沿いにアイヌの人々が住み、アイヌの伝統文化が濃厚に保全・伝承されている地域であり、アイヌ文化の保全・伝承を通してふるさとの歴史や文化を愛する心を育み、文化の薫り高いまちづくりを積極的に推進しており、河川の整備や維持管理を通じて、これらのまちづくりと連携した取組を実施している。 沙流川沿いの河川堤防は、沙流川沿いの豊かな自然環境を楽しめるフットパスやサイクリング等で利用されており、河川空間を活用したにぎわいの形成を図る上で最適な箇所である。これらの利活用を通じて、自然環境を楽しむ日常利用や観光振興、地域の魅力向上を進めていく。 アイヌ文化伝承場を整備中の二風谷地区においては、毎年チプサンケ(舟下ろしの儀式)が開催されており、アイヌ文化の伝承活動に寄与している。現在チプサンケが実施されている箇所は、安全なアクセスができるように継続的な河岸の維持が必要となっていたが、維持活動を軽減できる河岸整備を実施することで、安全で継続的な儀式の実施が可能となった。また、地元小学生による自然観察会の開催など、環境教育の場として寄与している。 整備予定箇所である二風谷ダム周辺は、アイヌ文化関連施設が集積する二風谷コタンに位置している。コタンの中には、平取町立二風谷アイヌ文化博物館や沙流川歴史館、平取町アイヌ文化情報センターなどの施設のほか、多くのチセ(家)が復元され、アイヌ文化・観光振興の拠点として観光客にも親しまれている。同エリアでは、平取町イオル文化交流センターが令和5年度に開業する予定であり、一層の利用者増加が見込まれる。 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 沙流川沿いを動線としたフットパスの機能を高めることで、まちから河川敷へのアクセス向上を行い、町域全体でアイヌ文化にふれあう機会を増やすとともに、施設間のネットワークの形成を行う。 アイヌ文化を壊さない景観を保ち、利便性、安全性を兼ね備えたアクセス箇所等を整備する。 河道掘削前後のアイヌ文化に有用な植物のモニタリングに必要な管理用通路を利用して、動線を確保し、水辺からアイヌ文化にふれあう機会を増やすとともに、自然環境に対する環境教育の場とする。 ダム湖周辺の親水性を高めるため、緩傾斜盛土や水路の整備を行う。加えて、アイヌ文化の伝承に必要な有用植物の確保のため、平取町が地域住民と共同でアイヌ文化の有用樹木を緩傾斜盛土に植樹する。 令和5年度開業のイオル文化交流センターの整備に合わせ、二風谷ダム湖岸の緩傾斜整備や水辺整備を行うことで、地域要望でもあるダム湖岸の親水性の向上を図る。 また、観光客の来訪が多い二風谷コタンと接続する管理用道路の整備を行うことにより、旧マンロー邸や二風谷アイヌ文化博物館など二風谷地区内での観光客の回遊性を高める。 <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> 政策目標：良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現 施策目標：良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する 									
便益の主な根拠	CVMにより算出 【平取町かわまちづくり】(令和4年度) 支払意思額:532円/世帯/月(住民アンケート) 受益世帯数:175,179世帯									
事業全体の投資効率性	基準年度		令和4年度							
	B:総便益(億円)	203	C:総費用(億円)	14	全体B/C	14.5	B-C	189	EIRR (%)	14.8
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	95	C:総費用(億円)	5	継続B/C	19.9				
感度分析	事業全体のB/C		残事業のB/C							
	残事業費(+10%~-10%)	14.1 ~ 15.0	18.2 ~ 21.9							
	残工期(+10%~-10%)	14.0 ~ 14.4	19.3 ~ 19.6							
	便益(-10%~+10%)	13.1 ~ 16.0	17.9 ~ 21.9							
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> 整備済みの水辺空間整備(本町地区)箇所は、アイヌ文化の保存・伝承活動に活用するためのアイヌ有用植物(キビ、ヒエなど)の植栽空間として利用されている。 また、平取町では整備箇所等で収穫した植物を用いて、アイヌの伝統的儀式の体験や、伝統料理の体験など、様々な学習・教育活動や文化伝承活動を積極的に行っており、自治体のまちづくりと一体となった河川整備が実施されている。 									
社会経済情勢等の変化	<p><関連事業との整合></p> <ul style="list-style-type: none"> 平取町では「平取地域イオル再生事業」の中の主要事業の一つに、アイヌ文化の保存、伝承、振興に必要な取組として、沙流川を軸とした水辺空間の整備を計画している。 このため、平成21年5月に「平取町かわまちづくり」として水辺空間の整備を位置づけて整備を行った。さらに、平取町の第6次平取町総合計画を踏まえ、平成28年3月の「平取町かわまちづくり」計画を変更し、二風谷地区のアイヌ文化伝承の場や紫雲古津・去場・荷葉地区の視点場の整備を行ってきた。 平成26年に平取町が策定した「二風谷地区再整備計画」に基づき、平成31年4月には、二風谷コタン(集落)の再整備やアイヌ工芸伝承館ウレシバの整備が行われた。加えて、令和元年5月に施行された「アイヌ施策推進法」を踏まえて認可された『平取町アイヌ施策推進地域計画』に基づき、イオル文化交流センターを令和5年度中の供用開始に向けて平取町が整備している。 また、令和2年7月に開業した民族共生象徴空間ウポポイ(白老町)との文化拠点交流事業を行うなど、アイヌ文化及び観光の両面からの連携を進めている。 <p><河川等の利用状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 整備済みの水辺空間整備(本町地区)箇所は、アイヌ文化の保存・伝承活動に活用するためのアイヌ有用植物(キビ、ヒエなど)の植栽空間として利用されている。 また、同じく整備済みの視点場整備(二風谷地区及び紫雲古津・去場・荷葉地区)箇所は、沙流川沿いの豊かな自然環境を楽しめるフットパスコースやサイクリングコースとして観光利用されている。 <p><地域開発の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年の流域自治体人口は約1万6千人となっており、緩やかな減少傾向にある。 また、地域の食や温泉を満喫するとともに、山菜採り体験やアイヌの伝統文化に触れることのできる日帰りバスツアーも企画されるなど、アイヌ文化を積極的に取り入れた観光振興が進められている。 <p><地域の協力体制></p> <ul style="list-style-type: none"> 平取町では整備箇所等で収穫した植物を用いて、アイヌの伝統的儀式の体験や、伝統料理の体験など、様々な学習・教育活動や文化伝承活動を積極的に行っている。 また、整備箇所周辺では、公益財団法人アイヌ民族文化財団主催の「キナカラ(山菜採取)体験」、平取町、日高北部森林管理署、室蘭開発建設部の連携協力による「にぶたに湖周辺自然観察会」が行われ、自然観察や環境教育活動が行われている。 									

主な事業の進捗状況	(令和4年度末) ・事業進捗率:約53%(全体事業費約11.1億円に対し、約5.9億円実施済み)
主な事業の進捗の見込み	・本事業においては、本町地区における水辺空間整備(平成21年度整備完了)、紫雲古津・去場・荷菜地区における視点場の整備(平成30年度整備完了)、二風谷地区におけるアイヌ文化伝承場の整備(令和4年度整備完了予定)を実施してきた。 ・二風谷地区(ダム湖周辺)では、追加整備として、国は、総合水系環境整備事業により緩傾斜整備や親水護岸等の水辺整備、管理用道路の整備を、平取町は、看板整備、植樹を行う。 ・この取組により、ダム湖岸の親水性の向上やアイヌ文化伝承の場の創出が図られると共に、二風谷コタン内での回遊性が高まることが期待される。
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<コスト縮減> ・今後の事業において、コンクリートブロック等を廃棄処分せず、破砕し、再生骨材として再利用することにより、約3百万円のコスト縮減効果が見込まれる。 <代替案立案の可能性> ・代替案の可能性については、現計画については、立案段階から沙流川流域イオル構想平取町推進協議会や水辺空間検討部会で論議を重ねており、現計画が最適である。
対応方針	継続
対応方針理由	・事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されていることから、事業の継続を原案とする。
その他	<第三者委員会の意見・反映内容> <都道府県の意見・反映内容> 流域に伝わるアイヌ文化の保存・伝承などに必要な水辺空間の整備を平取町と連携して行っており、北海道の川づくりビジョンの趣旨に沿っていることから、ダム湖周辺整備を追加する当該事業の継続について異議はありません。 なお、事業の実施にあたっては、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。